

窯業同窓会 見学会

今回の見学会は、山岸新会長以下、総務、企画、会計の担当者が入れ替わり、新体制での初の窯業同窓会の行事になった。窯業同窓会では、歴代、学生・大学との関係強化が謳われていたが、今年、この課題を積極的に実践することとなり、学科長の田中順三教授、事務の福富路子さんを交えて同窓会幹事会で学生さんの見学会への参加を増やすための方策を議論した。

現在の学生気質から難しさも予想されたが次の点を考慮して見学会の企画を行うことになった。

- ・学生の就職活動の一環として進め、M1の学生を狙う。
- ・水曜日 午前中はゼミが行われるため、M1の学生にとって水曜日の午後は時間的に参加しやすい。このため見学会は、水曜日の午後 半日のコースを企画することとなった。
- ・学生の就職において研究所志向が強いので東京近郊の研究所見学となった。
- ・例年、学生から参加費として千円を徴収していたが、学生の参加を促進するため無料とした。

上記の点を考慮して企画することとなったが、例年、窯業同窓会では一日コースの見学会が行われていたので、同窓会員対象とした一日コースと学生対象の半日コースの二本立で行くこととし下記の二つの案が企画された。

日時 平成21年10月14日(水)

コース① 京成佐倉駅集合—国立歴史民俗博物館—川村記念美術館
—太平洋セメント中央研—同窓会員と学生の懇親会

コース② DIC 総合研究所—太平洋セメント中央研究所—同窓会員と学生の懇親会
(帰路は、両コースとも学生と共にバスで大岡山に帰り、解散)

大学の協力にも支えられ安田准教授以下安田研の8名、坂井研の10名、田中研の7名といった大口の参加をはじめ、多くの研究室から参加があり、28名の学生を含む、大学側の参加者は32名であった。

一方、同窓会員を対象とした一日コースは、幹事3名を含む6名しか集まらなかった。貸し切りバスを学生コースに回した関係で早朝の京成佐倉駅集合になったことが不人気になったようである。そのため、一日コースを中止し、半日コースに終結することにした。補助椅子なしの定員に相当する45名の参加者を得ることができた。

こうして28名の学生を含む45名が、石原さんに手配して頂いた貸し切りバスで大岡山キャンパスからDIC総合研究所に向かった。途中、バスの中は学生向の就職支援教室に変わり、太平洋セメントの紹介ビデオと高宮さんによる財務諸表の講義が行われた。道路事情に恵まれ予定時刻よりも早く着き、財務諸表の講義に十分な時間をとることができなかったが、三洋電機と宇部マテリアルズの2社の貸借対照表を対比しながら企業を評価する一つの見方が紹介された。

DIC 総合研究所の見学では、実験室内の見学ができず物足りなさを感じざるを得なかったが、予定時間よりも早めに付いた関係で十分に会社説明、質問時間を取ることができ、研究支援担当 主席研究員 西江氏が親切に対応して頂いた。

D I C株式会社は、印刷用インキ、顔料を主要製品としているがインキで33%、顔料で25%の世界シェアを有し、売上の50~60%は海外が占めるグローバル企業であることが伺えた。またD I Cは、有機系の企業であるが、これからの商品開発にとって有機と無機の化学の融合が一層重要な技術開発要素との認識から材料工学の学生に対する期待も伺えた。

太平洋セメント株式会社 中央研究所の見学では、小川研究所長の挨拶の後、会社紹介、学生向けの就職案内の後、分析、コンクリート物性評価試験を中心に詳しく見学させて頂いた。粉体を取り扱う実験のため綺麗な作業環境とは言えず、現在の学生さんには見せない方が学生の勧誘には有利ではと心配になるほど詳しく案内して頂いた。

見学終了後に研究所の食堂をお借りして同総会員と学生さんとの懇親会を行ったが、学生さんの費用を太平洋セメントで持って頂けると伺っていたが、我々同窓生の費用まで負担して頂き、大変助かった。

自宅のロケーションの関係で2,3名を除き、バスで大岡山キャンパスに帰り、解散となった。

当初、学生の参加に不安であったが大学側の協力で多数の学生の参加を達成できた反面、同窓会員の参加者が少なく反省すべき点もあった。来年の見学会は、同窓会員を対象とした午前の部の企画に工夫を凝らし、バランスのとれた見学会を定着させていきたい。